

平成 2 8 年度

提 案 書

岡谷美術考古館

「文化生活の学びと向上に寄与する拠点」を目指して



岡谷市社会教育委員の会議

平成 2 8 年 1 2 月

《 目 次 》

I はじめに	2 P
II 提 案	
1 ハード（施設・装飾）	3 P
（1）館内外施設・整備の充実	
①映像や音声案内の仕組みづくり	②歩道の縁石撤去
③既存駐車場の案内表示	
（2）展示装飾の工夫	
①のミニ解説書を作成する	②館内表示板の作成 1
③館内表示板の作成 2	④入りやすい美術考古館
⑤諏訪地方の遺跡分布図・年表の作成	⑥狩り体験コーナーのリニューアル
2 ソフト（企画・運営）	5 P
（1）事業企画	
①発掘や昔の生活体験 1	②発掘や昔の生活体験 2
③学校の授業課程との連動	④館が主催するコンクールの開催
⑤出前講座の応用	⑥地域の作家を紹介するコーナー設置
⑦美術品を見たあとに余韻に浸れる空間づくり	⑧来館者への桑茶の提供
⑨自由に触れる展示品を通路などに置く	⑩チョークアートによる案内
⑪仲間の巨大作品展示	⑫展示作品と音楽を同時に楽しむ
⑬遺跡ジグソーパズル・チャンピオン	⑭在住外国人のための縄文体験
⑮イングリッシュサロン in ミュージアム	⑯子どもの作品展示
⑰縄文ピカソ	⑱勾玉を館のメインイメージにする
⑲テラスでの火熾し体験	
（2）周辺との連携	
①美術館・博物館めぐり	②3館の相互連携の強化
③商業会との連携	④信金童画館通り支店駐車場の活用
⑤近隣駐車場の共同利用	⑥童画館通りのフラッグ掲出
⑦交流広場の活用	⑧おかやの観光案内
⑨他施設への出張展示	

III 参考資料	11 P
----------	------

I はじめに

“岡谷の誇り”を多くの人に見てほしい

これまで岡谷市社会教育委員の会議では「行動する社会教育委員」をモットーに年度ごとにテーマを設け、社会教育に関わる諸問題について調査・研究を進めてきました。平成25年度は「成長樹（期）子育て実践ポイントの見直し」の答申、平成26年度には「第5次岡谷市生涯学習推進計画」の策定、平成27年度では「地域と家庭の学びについて」意見書の提出と活動を進めるなか、平成28年度は「岡谷美術考古館のサービス向上」をテーマとし、具体的な事業化に向けた提案を行うこととしました。

岡谷美術考古館は、美術分野と考古分野を併設する特徴ある文化施設として中心市街地にリニューアルオープンして3年が経過しています。移転後も来館者は増加傾向と聞いていますが、さらに多くの人に「岡谷の誇り」である展示品を鑑賞していただきたい思いをもち議論を深めてまいりました。

提案内容は、施設や装飾といったハード面と企画や運営のソフト面に分けました。経費を必要とするものからマンパワー事業まで、社会教育委員一人ひとりが思い描いたサービス向上策を挙げています。

この提案が岡谷美術考古館の更なる活性化の一助となり、文化を核としたまちづくりが進められ、岡谷市の生涯学習の推進が図られることを委員一同心より願います。

平成28年12月

岡谷市社会教育委員の会議

会長 濱 道 夫

Ⅱ 提 案

1 ハード（施設、装飾）

（1）館内外施設・設備の充実

① 映像や音声案内の仕組みづくり（要予算、検討事項）

山下清美術館では説明員が展示品にまつわる数々の話をしてくれた。こういった解説があると展示品への興味がさらに沸く。しかしながら実際には説明する人員も限られる。人員配置が厳しいようであれば機械導入はどうか。

機械の方が人に比べて安定したサービスの提供となりし初期投資のみで稼ぐ。人が来たらレコーダーが展示ごとの音声案内をする仕組みを構築したらどうか。



イルフ童画館の音声映像端末

② 歩道の縁石撤去（要予算、検討事項）

障がい者や車椅子利用者に優しい施設を目指し、玄関前の歩道で乗降しやすいように縁石を取り外してはどうか。※安全面など道路関係部署や警察との協議が必要。



美術考古館前の歩道

③ 既存駐車場の案内表示（予算不要）

施設の裏手にある専用駐車場には誘導看板が表通りと脇道に設置されているが文字が小さいと感じる。

建物裏側の曇りガラスの窓枠を使うなど運転手から見やすく大きな表示をしてはどうか。



裏側の駐車場

（2）展示装飾の工夫

① ミニ解説書を作成する（要予算／少額）

壁にある説明パネルの全てをじっくり読むのは大変である。
また視察の際、学芸員に解説をしてもらった「命をつなぐ土偶の話」



などは大変感動した。職員の手作りでいいので解説する冊子を作成し、手にしながら見学できるようにしてはどうか。内容は簡単で良いので、ポイントとなる逸話など紹介できれば展示品の見方も変わるし初心者でも興味が沸くと思う。※冊子のイメージは持ち歩けるA5版くらい。

② 館内表示板の作成1（要予算／ゼロ予算）

昭和40年からの発掘や諏訪地方を治めた群の役所の遺跡など茅野市よりも古い歴史がある。そうした「岡谷の宝・誇り」が2階に展示してあることを1階の天井に「表示板」を吊るして案内してはどうか。



③ 館内表示板の作成2（要予算／ゼロ予算）

展示してある土器を眺めていても、初心者ではどのように発掘されているのかよくわからない。

遺跡の発掘の様子、土器の復元過程などがわかる写真等の案内パネルや動画により説明などを行ってはどうか。



現在の遺跡発掘紹介パネル

④ 入しやすい美術考古館（要予算／少額）

入口がわかりにくく入館をためらうという声がある。壁面改修は経費がかかるため、風除室に明るいイメージのスクリーンを貼るなど、足を運びやすい工夫をしたらどうか。

季節ごとスクリーンの色を替えても面白いのではないかな。



現在の入口（風除室）

⑤ 正面ガラスに展示品の写真を貼ってPR（要予算／少額）

④に関連して岡谷の宝である「顔面把手付深鉢形土器」の写真をガラスに貼って通行人の目を引く宣伝をしたらどうか。商売においても入り口の看板は大事であり、目に付くもの、特徴あるものを正面に設置する効果は高いと思う。



⑥ 諏訪地方の遺跡分布図・年表の作成（ゼロ予算）

茅野市よりも古いと言われる岡谷の縄文の歴史を示す年表を「縄文のビーナス」や「仮面の土偶」、下諏訪の黒曜石など近隣の出土品も含めて広域の年表を作成してはどうか。



諏訪全体の歴史を学ぶ

⑦ 狩り体験コーナーのリニューアル（要予算）

弓矢による古代狩猟体験コーナーを弓矢で得点を競うなどゲーム性のある体験展示をやったらどうか。大きい弓矢だと子どもが遊びにくいと思うので小さい弓矢があれば良いと思う。



現在の狩猟体験コーナー

2 ソフト（企画、運営）

（1）事業企画

① 発掘や昔の生活体験 1（ゼロ予算）

発掘現場を親子体験する企画を実施したいへん好評だと聞く。さらに自分で発掘したものを「子ども発掘品の展示」として写真つきでギャラリーに展示してはどうか。

※川岸公民館とのタイアップだけでなく湊、長地公民館も含めた企画がよいのではないか。



川岸公民館広畑遺跡発掘体験

② 発掘や昔の生活体験 2（ゼロ予算）

現在の発掘体験は親子対象だが、一般の人でも興味ある人がいると思うので土師の会などに協力してもらい「いちい学級」などで実施してはどうか。

また、さらに発展させ、受講者から館内説明員になってもらえる人を募集すれば人材確保もできる。



いちい学級（旧高齢者学級）

③ 学校の授業課程との連動（ゼロ予算）

総合的学習の時間も以前の半分くらいになっている。縄文時代のことはほとんどやっていないのが現状であるが、縄文や弥生時代は4月5月の授業であるので、時期を合わせて子ども向け企画を行ってはどうか。

※学校のカリキュラムの中でやるのは難しいかもしれないので「春の親子教室」として行ってはどうか。

④ 館が主催するコンクールの開催（要予算／ゼロ予算、検討事項）

当館オリジナルのコンクールを実施してはどうか。仕掛けも大変なので、まずは小中学生対象の「子ども展」から始め、将来的には三世代を巻き込んだ「市民展」に発展できればとても良いと思う。※休み中の課題作品を二次利用する形なら手間は運搬のみであるし、全校分が揃えば美術考古館が市内小中学校の「出会いの場」にもなる。

⑤ 出前講座の応用（ゼロ予算）

職員による出前講座を応用し、美術館に人を集めるのではなく、「放課後子どもの居場所づくり事業」や「いちい学級」で職員が現場に出向き岡谷の歴史や遺跡の話をしてはどうか。子どもや受講者の関心を高めることで来館も期待できると思う。



「土師の会」による上の原小

「うえのはらっぱ」での土器の話

⑥ 地域の作家を紹介するコーナー設置（ゼロ予算）

諏訪市美術館にあった工夫だが、交流ステーションなどに地元作家を紹介した書籍や、発掘関連の図書といった館に關係のある本を置き自由に閲覧してもらってはどうか。※まちかど図書館コーナーと組み合わせてもいいと思う。



通路脇の現在の図書コーナー

⑦ 美術品を見た後に余韻に浸る空間づくり

現在は交流ステーションのみ飲食できるが、作品を一回り観た後、余韻に浸りコーヒーを1杯飲む空間があると良いのではないかな。展示内容によっては市民ギャラリーでも飲めないかな。



現在のテラスと自動販売機

⑧ 来館者への桑茶の提供（要予算／少額）

⑦の案に関連し、シルクのまち岡谷にちなんだ「桑の葉茶」を提供してはどうか。※イメージはポットと紙コップで提供するもの。合わせてシルクファクトなど他の観光施設をPR案内できると考える。



「徳本草のまち岡谷」の桑商品

⑨ 自由に触れる展示品を通路などに置く（予算不要）

山下清美術館では順路に放浪で使ったリュック（複製）が壁に掛けてあったり、画伯の載った新聞のスクラップがベンチに置いてあり、自由に手に取ることができた。これを参考に「手で触れる土器など展示品を通路に設置してはどうか。」

土器の破片でもいいので実際に手に取り質感を体験できれば楽しいと思う。



ドングリを煮る土器の複製品

⑩ チョークアートによる案内（要予算）

市内在住作家のチョークアートで館内のイメージを統一して案内する。様々な芸術分野の支障にならない範囲で楽しい美術館のイメージを伝えてはどうか。



チョークアートによる案内

⑪ 仲間の巨大作品展示（要予算／少額）

正面玄関2階のガラスウィンドウに学校、クラス、保育園、グループなどの作品を展示してはどうか。（イメージは模造紙3～8枚程度、絵画、書道、貼り絵など、立体作品も）。※参加者の公募や、作品は期間により入れ替えしたり、中学、高校の部活（美術部、書道部など）にも参加を要請してはどうか。



正面2階のウィンドウ

⑫ 展示作品と音楽を同時に楽しむ（予算不要）

交流広場で音楽を楽しむ企画では多くの人が来館しているようである。さらに発展させ、展示室内でコンサートを行ってはどうか。芸術と芸能を同時に楽しむイメージ。

収蔵作品と雰囲気合う楽器や歌の演奏。例えば、「風景画とバイオリン」、「書と尺八・琴」、「山水画と二胡」など。演者は無料の人をお願いし、演奏の時間中は入館料も無料にするなど工夫してはどうか。



旧林家住宅での琴の演奏

⑬ 遺跡ジグソーパズル・チャンピオン（要予算／少額）

顔面把手付深型土器のジグソーパズルを作成し、子どもに組み合わせを挑戦させ

年代別に時間と名前を記録し掲示する。例えば「50ピース
部門小学生：林太郎（神明小）3分25秒」など表示し、記
録が抜かれたら名前を入れ替える。



土器のパズル（10ピース）

⑭ 在住外国人のための縄文体験（要予算／少額）

市内に住む外国人が考古の歴史を学び、火おこしや勾玉づ
くりを体験するイベントを行ってはどうか。太古の歴史に思
いを馳せながら日本文化に触れる。

※国際交流センターとタイアップして行う。



考古に興味をもつ外国人

⑮ イングリッシュサロン in ミュージアム（予算不要）

企画展時に合わせて、英語を交えた展示解説を行い、中学
1・2年生に生の英語に触れ外国語に興味を持つ機会を提供
する。国際交流員が英語と日本語を交えて展示の解説をす
る。芸術鑑賞と語学研修を兼ねて学ぶことができる。土日や
休業日を活用し募集する。



英語に興味ある子どもは多い

⑯ 子どもの作品展示（予算不要）

小中高校の学校や保育園の子どもたちの作品を交流広場に展示
する。例えば週替わりで入れ替えるなど「美術考古館へ行け
ばいつも子どもの作品が観られる」というイメージを作っ
てはどうか。

学校やクラス単位での授業での作品や中学・高校の美術部
の作品なども組み入れ、幅広い分野の作品を展示し親子での
来場を促す。



放課後居場所づくり作品展

⑰ 縄文ピカソ（土器塗り絵コンテスト）（予算不要）

縄文時代に絵の具があったらどんな土器ができていたの
かピカソになった子どもが創造をふくらませてカラフルな
顔面把手付深型鉢土器の塗り絵を描きコンテストを行う。



カラフルな土器の貼り絵

⑮ 勾玉を館のメインイメージにする（予算不要）

古代の勾玉は考古学への興味を持つきっかけとなり、現代でもパワーストーンとして話題にできる。また勾玉づくりを小学生から大人まで多くの市民が体験し考古館のメインイメージとしてはどうか。



居場所づくり事業での勾玉づくり

⑯ テラスでの「火熾し体験」（予算不要）

日頃体験できない「縄文の火熾し」を気軽に短時間で経験できるよう屋外テラスに設置し、家族連れなどが受付に声をかけて自由に体験できるようにしてはどうか。



湊「山っ湖事業」での火熾し体験

⑰ 小中学校にある「お宝」を展示する（予算不要）

学校を訪問すると、古くからある学校にとって価値のある「お宝」を見ることがある。こういったものを集めて展示してはどうか。卒業生にとって懐かしいもの、価値のあるものが展示されれば見に来る人も多いと思う。

（２）周辺との連携

① 美術館・博物館めぐり（要予算、検討事項）

岡谷市内でも３館共通券を発行しているのだから、「美術館を巡る街歩き」を企画してはどうか。

またシルクフェアで巡回バスが運行されているようでありバスを活用し美術考古館、蚕糸博物館、イルフ童画館などを巡回する企画を行ってはどうか。



シルクフェアの巡回バス

② ３館の相互連携の強化（要予算、検討事項）

①に関連して、３館共通券などを配るだけでなく、その場にしながら他の館の紹介等の情報が見られたらいいのではないかな。

美術考古館でシルクファクトやイルフ童画館を紹介するコーナーを設置するな

ど施設が相互に紹介しあう。芸術文化だけでなく観光や商業など間口が広がる。

③ 商業会との連携（要予算、検討事項）

商店街で買い物をしたら入館料が割引になる仕組みを作ってはどうか。

④ 諏訪信用金庫童画館通り支店駐車場の活用

信用金庫の駐車場は土日に限って利用できるようであるが、平日の窓口が閉まる3時以降も使えないか。またイベント時は使用許可を得て参加者に周知してはどうか。



信用金庫童画館支店駐車場

⑤ 近隣駐車場の共同利用（要予算）

④に関連して近隣の公共施設や民間事業所の駐車場を供用する形で確保してはどうか。※駐車場使用料も含め協議交渉を要する。借上料負担が生じる。



ハローワークの駐車場

⑥ 童画館通りのフラッグ掲出（要予算／少額）

街中の美術館として年1～3回「縄文ウィーク」として街路灯に土器などをイメージしたフラッグを掲出し、1階展示室にも考古の特別展示を行う。フラッグは年数回、数年間使えるものを手作りできないか。童画館通り商業会と共催し連携する。



童画館通り街路灯のフラッグ

⑦ 交流広場の活用（予算不要）

無料で休めることをPRするため館外テラスに「ほっと一息いかがですか！」など気軽に休めることを案内する。

⑧ おかやの観光案内（予算不要）

岡谷駅に近い立地を活かし交流広場やテラスなどに、わかりやすい地図と徒歩での時間を示し市内を回遊するように促す。



あるき太郎「西回廊」マップ

⑨ 他施設への出張展示（予算不用）

市役所旧庁舎を活用し「出張展示」を行ってはどうか。
庁舎見学と美術鑑賞を兼ねることができるので集客の魅力が
倍増すると考える。



味わいある旧庁舎

Ⅲ 参 考 資 料

1 提案書の検討経過（別添1）

- | | | | |
|---------|-----------|-------|-----------------|
| (1) 第1回 | 社会教育委員の会議 | 5月18日 | (岡谷田中小学校学童クラブ) |
| (2) 第2回 | 同 | 6月23日 | (岡谷美術考古館) |
| (3) 第3回 | 同 | 7月14日 | (諏訪市美術館、山下清美術館) |
| (4) 第4回 | 同 | 8月25日 | (岡谷美術考古館) |
| (5) 第5回 | 提案書の提出 | 11月上旬 | |
| (6) 第6回 | 教育委員との懇談会 | 2月予定 | |

2 委員同士の研修

- (1) 山田和男委員 「主任民生児童委員の役割」

3 行動する社会教育委員

- (1) 諏訪・上伊那地方社会教育委員・・・研修会
- (2) 神明小学校「親子レクリエーション」視察
- (3) 長野県社会教育委員研究大会
- (4) 諏訪地区社会教育委員連絡協議会研修視察
- (5) 岡谷市地域子（己）育てサポーター連絡協議会視察
- (6) 放課後子どもの居場所づくり事業への参画



岡谷美術考古館での会議



美術考古館館内の見学



諏訪市美術館の視察



山下清放浪美術館の視察



放課後子どもの居場所づくりへの参画



神明小学校親子レク視察

岡谷市社会教育委員

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

氏 名	法第 15 条 2 に 基づく区分	所属団体等	備 考
新 村 邦 武	学識経験者	元区長	平成 23 年度～
堀 向 弘 右	学識経験者	元岡谷市職員	平成 23 年度～
濱 道 夫 ◎	社会教育	壮年会役員等	平成 23 年度～
星 野 直 美 ○	家庭教育	子ども会育成会役員	平成 23 年度～
今 井 誠	家庭教育	元小学校 P T A 役員	平成 25 年度～
間 宮 洋 子	家庭教育	子ども会育成会役員等	平成 27 年度～
佐々木るり子	社会教育	ガールスカウト役員	平成 27 年度～
山 田 和 男	社会教育	卓球連盟役員等	平成 27 年度～
林 邦 子	家庭教育	放課後子どもの居場所づくり事業運営委員	平成 27 年度～
酒 井 重 明	学校教育	校長会（湊小学校）	平成 27 年度～

◎=会長、○=副会長（1 期任期 2 年：平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 ※校長会代表：任期 1 年）